



「病人をいやし、死者を生き返らせ…、悪霊を追い払いなさい」。(マタイ10章8節)

主教 オーガスチン 小林 尚明

イエス様は弟子たちを派遣する前に、「群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれ『収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるようには、収穫の

主に願いなさい。(マタイ9:37)』と言われました。私たちイエス様から宣教に遣わされる前に、この世界の人の苦しみや悲しみをしっかりと受け止め、働き手を神戸教区に送ってくださるようには祈りたいと思います。

会議でランバス大主教と会談し、カントベリー大主教とステイン・ウエルビー師とのお連れ合いのキャロラインさんから広島のために折り鶴とお手紙をいただきました。それらを広島復活教会に展示していただきました。机の上の折り鶴は、英国から来た旅行者が大主教の手紙と折り鶴を見て平和を祈って折られました。

私たちが派遣される時にまず、注意したいことは「異邦人の道に行ってはならない。また、サマリア人の町に入ってはならない。むしろ、イスラエルの家の失われた羊のところへ行きなさい。(マタイ10:5)」という言葉です。古本純一郎大主教様が、よくこのみ言葉を引用されて、「そんなに遠くまで行かなくてもよい。あなたの身近にいる、苦しんでいる人、悲しんでいる人、希望を失っている人、希望を失っている人のところに行きなさい」と教えてくださいました。そんなに遠くではなく、もっと身近な人に関心を向けたいと思います。

よし、死者を生き返らせ、悪霊を追い払いなさい」と命じられています。勿論、私たちはイエス様のように確実に病気をいやすことは出来ません。しかし病気の方を訪問して、一緒に祈ることは出来ます。祈りによって神様の恵みを確実にお届けすることが出来ます。高齢の方で施設に入られていてお会いできない方もおられます。それでも電話をかけ、お話することは出来ます。「なかなかお会いできませんね」とお声を聞かせていただくだけでも、祈りに力が入ります。

また「悪霊を追い払え」と言われています。悪霊に取りつかれた人の一つの特徴があります。それは、「かまわないうでくれ(マルコ1:24、5:7)」と言うのです。「俺のことはほっといてくれ」、「私の人生なんてどうせ:」というような言葉を聞く時があります。私はその度に、その人が神様から愛されている、といううことを受け入れてくれたら、どんなに素晴らしいだろう、と思います。神様から愛されている、ということこそをその人たちが受け入れた時、悪霊は追い出されていくのではないのでしょうか。

一年の後半、祈りをもって神様がこの世界で行われているお働きに参加しましょう。(神戸教区主教)

日本聖公会 神戸教区報
神のおとずれ

2023年 6月号
発行所 神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>
発行責任者 司祭 瀬山 会治
印刷所 文明堂印刷所

回しです。死者とは、死人ではなく、神様と関係をもって生きていない人のことです(マタイ8:22)。それらの人々を神様との関係の中に招きなさい、ということなのです。